



食品分野の輸入原材料のGHG排出量算定における 排出原単位データベース活用のためのガイダンス（案）

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

2024年3月

目次

Ⅰ．本ガイドンス作成の背景・目的	3
Ⅱ．食品分野におけるデータベース活用の考え方	7
Ⅲ．目的に応じたデータベース活用方法	11
全体の排出ボリューム、ホットスポットを把握したい －産業連関表データベースの活用	12
特定の品目を掘り下げて算定したい －積み上げデータベースの活用（基礎編） ：データベースの数値を参照して使用する	21
自社の削減努力を反映して算定したい －積み上げデータベースの活用（応用編） ：努力を反映した原単位を探す ：データの一部を自社に合わせて加工する	32
付録	43
略語、用語説明	44
改訂履歴	45

ガイドンス利用時の注意事項

- ・ 本ガイドンスは、各データベース情報を紹介するものであり、その内容を保証するものではありません
- ・ 本ガイドンスに記載されているデータベースの利用に際しては、データベース利用者自身が、そのデータベースの備えるデータの適合性や、品質等をご確認の上で、ご利用ください
- ・ 本ガイドンスを利用した結果発生する直接あるいは間接の損害について、一切責任を負いません
- ・ 本ガイドンスは、2024年1月時点の調査結果を基に作成しています

I. 本ガイドンス作成の背景・目的

- ここでは、本ガイドンスの想定利用者、ガイドンス作成の背景・目的について説明しています

はじめに — 本ガイドンスの想定利用者

本ガイドンスは食品分野の輸入原材料の排出原単位データベースの利用の支援を対象としています。
前提知識の獲得や算定のサポートは関連資料や外部専門家を活用ください。

- 本ガイドンスは「食品分野の輸入原材料の排出原単位データベースの利用」の支援を対象としており、**組織単位・製品単位の算定についての基礎知識がある方の利用を想定**したものです
- 本ガイドンス活用のための前提知識となる排出量算定全般の考え方等については、以下の「参考資料・リンク集」等を参照してください
- また、実際の算定に当たっては、社内の知見のみでは対応が難しい場合があります。そのような場合は、**必要に応じ外部の専門家等の知見を借りる**ことが求められます

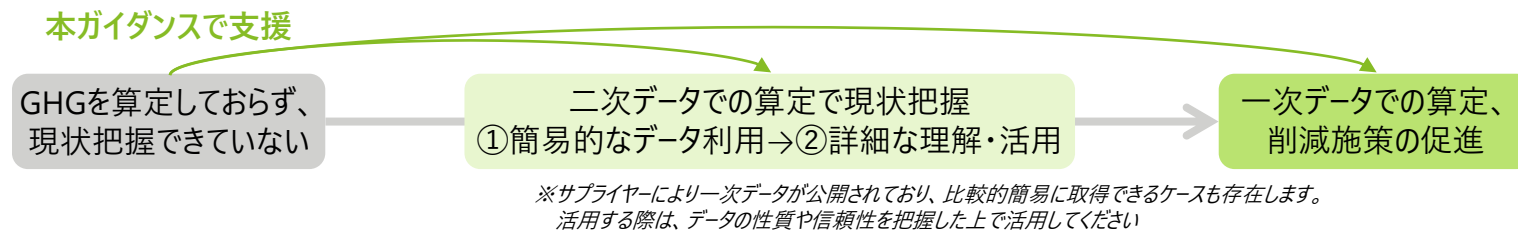
参考資料・リンク集

- ✓ 環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」 https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate.html
 - 企業の脱炭素経営に向けた取組を支援するために温室効果ガス排出に関し、①知る、②測る、③減らすの各ステップ毎における取組方法や各種事例紹介、ガイドをまとめた「脱炭素経営」の総合情報プラットフォーム。主にサプライチェーン排出量算定に係る知見を得ることができる
※当サイト内のIDEAV2.3はScope3算定目的のみでしか利用できないことに留意
- ✓ 経済産業省、環境省「カーボンフットプリント ガイドライン（2023年5月）」 <https://www.env.go.jp/content/000124385.pdf>
 - 「カーボンフットプリント ガイドライン」では、以下の構成で、カーボンフットプリント（CFP）の算定等に取り組む者に対する指針を示している
第1部 基本的な考え方、カーボンフットプリントの意義・目的、第2部 カーボンフットプリントに関する取組指針
- ✓ 総務省 産業連関表ウェブサイト https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/index.htm
 - 産業連関表に関する情報が取りまとめられている
- ✓ 国立環境研究所「3EID ウェブサイト」 https://www.cger.nies.go.jp/publications/report/d031/jpn/index_j.htm
 - 国内の産業連関表を用いて算出した環境負荷原単位を収録したデータブックを提供している。国外の産業連関表データベースを扱う際も活用可能な知見が掲載されている

ガイドンス作成の背景

本ガイドンスでは、サプライチェーン排出量の算定・把握、ひいては脱炭素化の実践を促進するため、**輸入食品原材料のGHG排出原単位データ**を利用しやすい形で整理しています。

- 「みどりの食料システム戦略」*に掲げた持続可能な食料システムの構築に向けて、サプライチェーン全体を通じた脱炭素化が求められています。食品関連事業者においては、脱炭素化や持続的な原材料調達など環境配慮経営に取り組み、取組を可視化し、気候変動対策等への資金循環や持続可能な消費行動を促すことが必要です
- このような、**サプライチェーン全体での脱炭素化とその「見える化」を進めるためには、サプライチェーン排出量を算定し、把握することが重要**です。一方、世界各地にフードサプライチェーンが広がり、食品関連事業者が多くの食品原材料や飼料を含む生産資材を輸入に依存している中で、**輸入食品原材料のGHG排出原単位の取得が課題**となっています
- こうした現状を踏まえ、本ガイドンスでは**食品関連事業者が輸入食品原材料のGHG排出原単位データを取得するに当たり、代表的なGHG排出原単位データベース及び利用に当たっての留意点を整理**しています
- なお、本ガイドンスでは、データベースの活用による算定方法を示していますが、各事業者はより**評価対象の実態と整合的なデータの取得**に向け、一次データの収集も含めて算定を行うべきであり、さらに第三者検証で信頼性を高めることも必要です
- また、脱炭素化のみならず、土地利用変化への対応、人権尊重や生物多様性の保全など関連する課題への取組も同時に検討していくことが重要です



* みどりの食料システム戦略トップページ（農林水産省） <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>

ガイドン作成の目的

本ガイドンは、食品事業者が輸入食品原材料の排出量算定を行うために、原単位を参照するための手引きを示しています。

- 輸入食品原材料の排出量の算定は、①取引先から調達品の排出量の提供を受ける方法と、②活動量*1を自社で収集し、該当する排出原単位*2を掛け合わせる方法の2種類があります
- 本ガイドンの目的は、食品事業者が②の方法で輸入食品原材料の排出量算定を行う際に、原単位を適切かつ効率的に参照するための手引きを示すことです
- 本ガイドンで提示するデータベースおよびその算定方法は、組織単位、製品単位いずれにも対応しています
- ガイドンを活用することで、輸入食品原材料の算定において、様々なデータベースをどう使用できるかが理解できるようになり、事業者の持つニーズに合わせた算定が可能になります

	課題	ガイドンでできること
 算定の考え方	• 輸入食品原材料のGHG排出量を算定したいが、どのように算定すれば良いのか分からない	• 輸入食品原材料のGHG排出量を算定する方法が分かる
 データベース選定の考え方	• データベースは様々あるが、どのような場合にどのデータベースを使うべきか分からない	• データベース毎の特徴が理解でき、使用目的ごとのデータベースの使い分けが分かる
 データベースの活用方法	• データベースの具体的な使用方法が分からない	• ガイドンに掲載された操作方法を確認しながら、データベースから求める原単位を取得できる

*1：事業者の活動の規模に関する量のこと。例：調達量、調達金額

*2：活動量あたりのGHG排出量のこと

II. 食品分野におけるデータベース活用の考え方

- ここでは、食品分野におけるデータベースを選定し、活用するに当たり、理解しておくべき事項を整理しています
- また、本ガイダンスで扱うデータベースを一覧にしています

データベースの種類、活用の考え方

排出原単位には産業連関表ベースと積み上げベースの双方を用いることができますが、それぞれの性質やメリット・デメリットを十分に理解した上で利用することが重要です。

算定のアプローチ

産業連関表ベース

産業連関表を用いて、部門間の金額ベースのやりとりから特定製品に関わる環境負荷を算定する手法

積み上げベース

製品を生産するプロセスの各段階において使用した資源・エネルギー（インプット）と排出物（アウトプット）を詳細に計算し集計することで環境負荷を求める手法

メリット

- ★社会に存在するすべての財・サービスの生産に伴う直接・間接的な排出量を把握することが可能
- 社会に存在するすべての財・サービスの排出量を把握しているため必要な原単位を入手可能

- ★ライフサイクルの各段階で投入した資源・エネルギー（インプット）と排出物（アウトプット）を詳細に収集・集計しているため、高精度
- ★現実のプロセスに対応しており、データの代表性も高い

デメリット

- ★産業連関表では社会に存在するすべての財・サービスを400種類に分類しており、一つの部門に該当する商品やサービスは複数存在することが多い。原単位はそうした多種の製品の平均的な単位生産額あたりの排出量を示しており、詳細な分析は困難

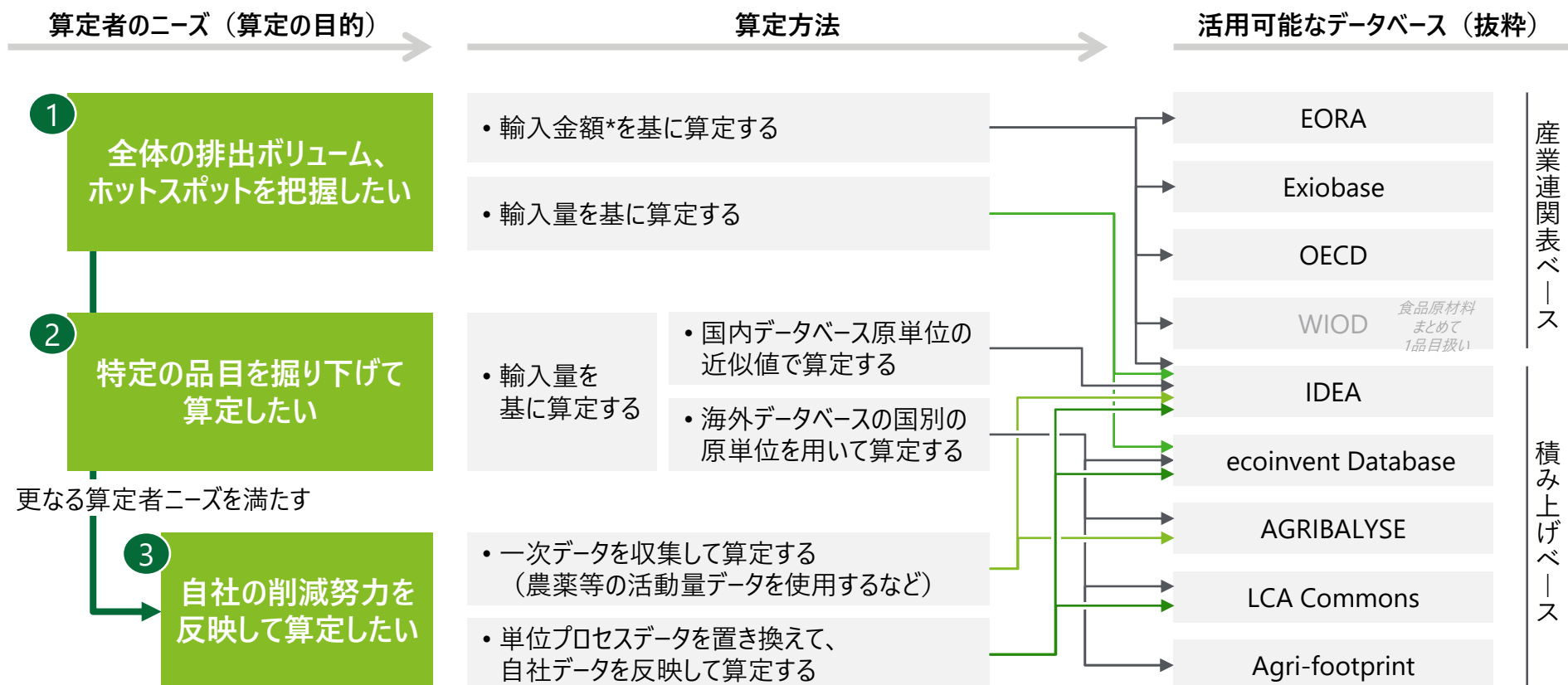
- ライフサイクルに含まれるプロセスは非常に複雑であり、積み上げ法により排出原単位を作成するには多大な労力が必要
- 原単位を網羅的に整備していないデータベースも存在する

※ ■：原単位作成者の視点、□：原単位使用者の視点、★：原単位作成者・使用者共通の視点

データベースの種類、活用の考え方

算定の目的に応じて、活用するデータベースを選定する必要があります。

- 複数のデータを用いる際は、データの共通性が重要であることから、原則として単一のデータベースの数値を使用します。一方で、異なるデータベースを使用することに対して合理的な説明ができる場合は、データベースを併用することができます。
例：必要な品目のデータがない場合、地域性を考慮する等より実態に合った値を算定する場合 等



* ここでの「輸入金額」は購入者価格ではなく生産者価格（出荷価格）を指す点に留意。例えば牛肉の場合、輸入牛肉の価格であり、輸送/卸小売段階のコストは別に計算する必要がある

本ガイドンスに掲載しているデータベース一覧

本ガイドンスでは、以下のデータベースに関する情報を掲載しています。

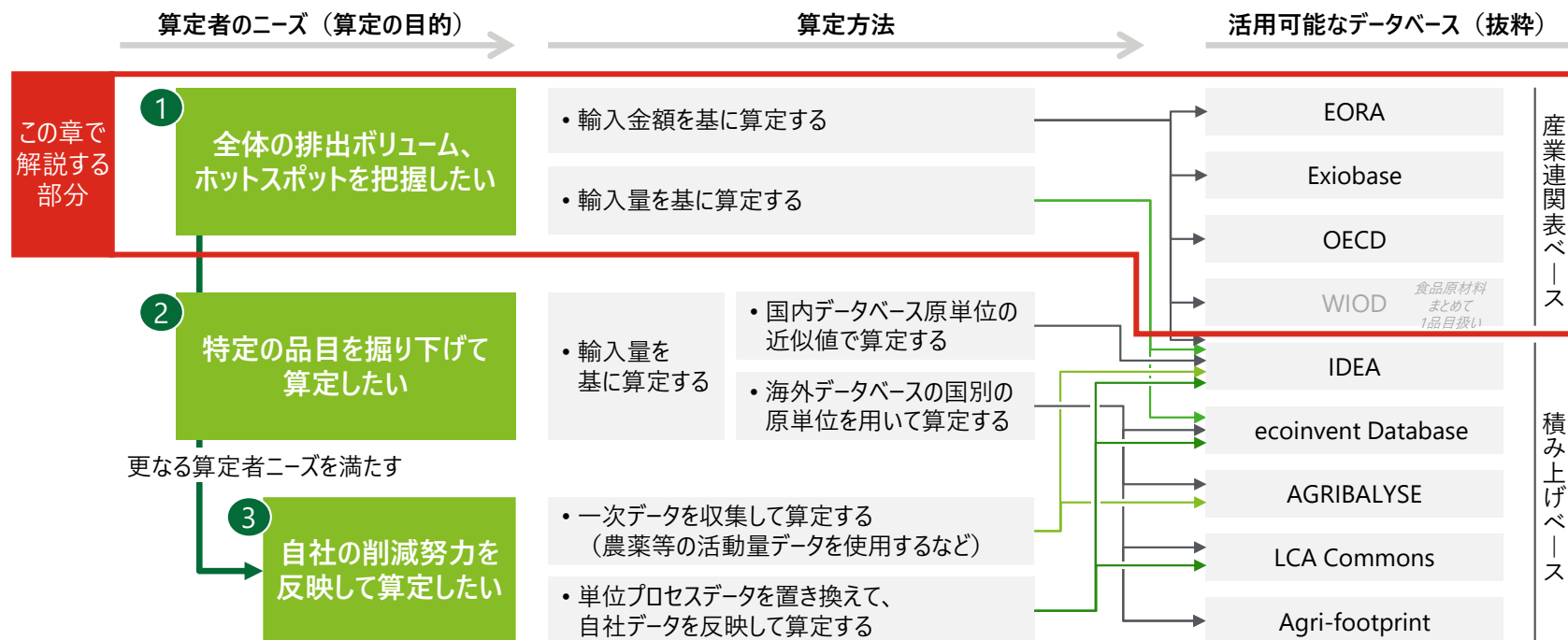
#	名称	作成機関	算出法	概要・特徴
1	Eora	Eora	産業 連関表	190か国以上、1990年から2022年までを対象期間し、地域ごとに26-511セクターの経済・環境負荷等に関するデータが提供されているデータベースであり、環境・社会サテライト勘定に対応する多地域産業連関表（MRIO）。国によりセクター数が異なるため、特定のセクターの国際比較ができない点に留意
2	Exiobase	EXIOBASE consortium	産業 連関表	44か国と5地域をカバーしているデータベースであり、163セクターと200の商材を掲載。1995年～2022年を対象期間とする。MRIOの中では対象国が多く、GHGの分析に適当。なお、飼料の排出量が畜産の排出量に含まれているため注意が必要。対象期間は2022年だが、2011年のデータを延長しているものであり、最新データは実績との乖離が大きい可能性あり
3	OECD	OECD、FAO	産業 連関表	38のOECD加盟国、28の非加盟国を含めた計66か国を対象とし、45セクターをカバーしているデータベース。1995年から2018年までを対象期間とする。提供形式は、各年度のExcelファイルが5年間で一つにまとめられ格納されたCSV形式か.RDATA
4	WIOD	The Groningen Growth and Development Centre	産業 連関表	欧州を中心に43 か国、56セクターをカバーし、対象期間は2000 年から 2014 年。国際標準産業分類改訂4版（ISIC Rev.4）に従って分類されており、表はSNAの2008年版に準拠している。商品・サービスの国際貿易データと整合化された供給・利用表が中心となったデータベース
5	IDEA	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	積み上げ	日本の統計データ等を用いた積上型データで約5,000件以上のプロセス数を整備しており、海外輸入原材料算定では、近似値として利用可能
6	ecoinvent Database	The ecoinvent Association	積み上げ	多様な国と部門を含むデータベース。欧米を中心に広く使われる。データセットは複数の専門家のレビューを受け、信頼性が高い。科学的に正確で透明性が高い国際的なインベントリデータを提供することを目的として開発が行われており、メジャーなLCAソフトウェアでの使用が可能。提供形式はWebサイト上での公開、Excelファイル及びEcoSpold v2 XML 形式である。排出原単位はライセンスを入手してWebページ上で確認、Excelファイルを参照、またはサポートへ問い合わせが必要
7	AGRIBALYSE	ADEME, INRAE	積み上げ	フランスのADEMEとINAREが共同運営するデータベース。ライフサイクルアセスメントの方法論に従って構築されたデータベースを通じて、農産物および食品の環境への影響に関する参照データを提供することを目的としている。農業と食品分野に特化しており、一貫性を持った品質評価を行ったデータが掲載されている。提供形式は簡易版はExcel版、CSV版、JSON形式で提供される。完全版はopenLCAとSimaProで利用できるデータベース形式で提供される。排出原単位はExcelファイルに含まれており、影響評価手法はEF Method 3.0である。LCAソフトウェア上で計算を行うことで算出することも可能
8	Federal LCA Commons	米エネ省国立再生可能エネ研究所(DOE, NREL)、農務省(USDA)	積み上げ	米エネ省国立再生可能エネ研究所（DOE, NREL）、農務省(USDA)のデータベースであり、地理的範囲は米国が中心。プロセスデータは641件であり、単位プロセス型
9	Agri-footprint	Blonk Consultants	積み上げ	全世界の農業および食品分野に特化したデータベース。クリティカルレビューを行い発行されているため、信頼性が高い。提供形式はSimaPro DBファイルとopen LCA DBファイル、Excelファイル。排出原単位としての使用には特性化が必要

* 欧州委員会環境総局のデータベース「EF（Environmental Footprint）」はPEF: Product Environmental Footprint、OEF: Organization Environmental Footprintの目的に限定されている

III. 目的に応じたデータベース活用方法

- ここでは、前段で整理した算定の目的に応じて、具体的なケーススタディとともに各データベースの概要・使い方、関連情報について整理しています

① 全体の排出ボリューム、ホットスポットを把握したい方 (改善余地が大きい領域) ー 産業連関表データベースの活用



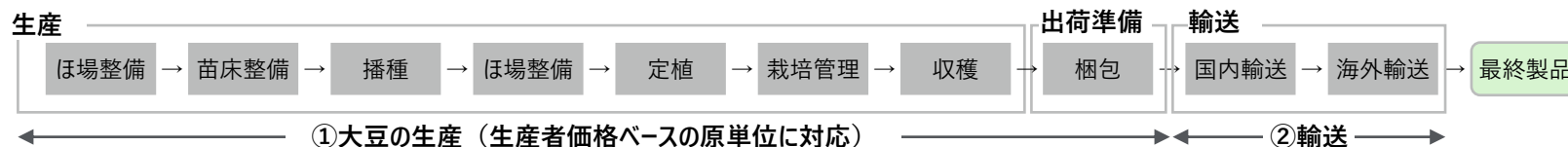
ケーススタディ①

産業連関表ベースのデータベースを用いることで、海外での原材料生産に係るGHG排出量を概算することができます。

STEP1 目的と範囲の設定

- 算定する製品：A国からの輸入大豆（現物量1kg）
- 算定の目的*：Scope3カテゴリ1の排出ボリュームを把握するため、海外調達製品の環境負荷を把握する。
- 機能単位：A国で生産された輸入大豆1kgあたり

STEP2 ライフサイクルフロー図の作成



STEP3 活動量データの収集

A国から輸入している大豆の金額データ（輸入金額）を参照

金額データへの換算：A国での大豆生産1kg = xxx ドル

※ここでは購入者価格ではなく生産者価格（出荷価格）を指し、上記①をカバーする。上記②の輸送は別途算出する必要がある（P36参照）

※ドル換算に当たり、正確な物理量が出るように輸入金額が定まった際の為替レートを用いる場合と業界共通等で同一の為替レートを用いる場合がある。
業界のルール等がある場合はそのルールに沿った算定をすることが推奨される

STEP4 排出原単位のデータ収集、算定

Exiobase等のデータベースから排出原単位を収集

大豆を含む「穀物（米を除く）、豆類及び採油用の種の栽培」の原単位を参照する

※この際、データベースの値が生産プロセスのどの範囲まで含む数値なのかを確認する必要がある

「穀物（米を除く）、豆類及び採油用の種の栽培」のGHG排出原単位：xxx kg-CO₂e/ドル

A国からの輸入大豆1kgあたりの
温室効果ガス排出量
xxx kg-CO₂e/kg

※別途算出した輸送分のGHGと合算

【積み上げ型データベースの活用】

・上記と同様のステップで、活動量データ（調達量）に、積み上げ型データベースに掲載の原単位を掛け合わせて算出することも可能

データベースの概要 産業連関表ベース（1/2）

下表に整理した項目を確認し、各データベースの特徴を理解した上で活用する必要があります。

		Eora（-2015） https://worldmrio.com/	Exiobase（-2022） https://www.exiobase.eu/index.php
作成機関		Eora	EXIOBASE consortium
利用可能性	地理的範囲	190か国以上（国によってセクター差あり）	主要な調達先を含む44か国と5地域
	環境指標	35の指標（CO2,CH4,water footprint等）をCO2換算で記載	27の指標（CO2,CH4,water footprint等）をCO2換算で記載
	有料・無料/ライセンス	有料（学術機関の利用等は無料）	無料
	食品原材料カバー状況	食品セクターはカバーされているが、国によって品目に差がある	食品セクターはカバーされているが、国によって品目に差がある
基礎情報	食農品セクター数（セクター名）/全セクター数	3（Agriculture / Fishing /Food & Beverages）/26 ※ただし国別にセクター数が異なるため、簡易版の26セクター～511（USA）で幅がある	14（Paddy rice / Wheat / Cereal grains nec / Vegetables, fruit, nuts / Oil seeds / Sugar cane, sugar beet / Plant-based fibers / Crops nec / Cattle / Pigs / Poultry / Meat animals nec /Animal products nec / Raw milk）/163
	食農品品目数	国によって異なる	14 ※食農品については1セクター1品目で対応
	品目の分類基準*1	ISIC 第3版	ISIC 第3版
信頼性	時間的範囲	1990-2015	1995-2022（ただし、2011年時点データを拡張して推定）
	原単位品目の粒度感	部位や詳細な粒度では分かれていない	部位や詳細な粒度では分かれていない
	プロセスの範囲*2	生産にかかる数値を記載、Scope1/Scope3それぞれが示されている	生産にかかる数値を記載、Scope1/Scope3それぞれが示されている
	土地利用変化の加味	加味されていない	加味されていない。土地利用は一部加味されている（農業泥炭）
カバー項目（例）	データの統一・比較		金額ベース
	牛肉	アメリカ	-
		オーストラリア	肉牛
		カナダ	-
	大豆	アメリカ	大豆、その他の油糧加工種子
		ブラジル	大豆/油、ケーキ、皮、小麦粉、その他の生の大豆製品/加工大豆油
		カナダ	-

*1：各データベースによる分類の組み替えあり *2：具体的なデータの掲載イメージはP16～19を参照

データベースの概要 産業連関表ベース（2/2）

下表に整理した項目を確認し、各データベースの特徴を理解した上で活用する必要があります。

		OECD（1990-2020） https://www.oecd.org/sti/ind/input-outputtables.htm	WIOD（2000-2014） https://www.rug.nl/ggdc/valuechain/wiod/?lang=en
作成機関		OECD、FAO	The Groningen Growth and Development Centre
利用可能性	地理的範囲	38のOECD加盟国、28の非加盟国を含めた計66か国（国によりデータの有無に差がある）	欧州を中心に43 か国
	環境指標	GHG（CH ₄ ,N ₂ O,CO ₂ ）をCO ₂ 換算で記載	環境負荷物質8種類を含む31種類をCO ₂ 換算で記載
	有料・無料	無料	無料/商業利用も含めて再配布可能
	食品原材料カバー状況	食品セクター及び品目による分類有り	食品原材料をまとめて1品目の扱い
基礎情報	食農品セクター数（セクター名）/全セクター数	1（Agriculture, hunting, forestry）/45	1（Crop and animal production, hunting and related service activities）/56
	食農品品目数	34 ※OECD-FAO Agricultural Outlookより	1 ※セクター単位での記載のみ
	品目の分類基準*1	ISIC 第4版	ISIC 第4版
信頼性	時間的範囲	1990-2020	2000-2014
	原単位品目の粒度感	部位や詳細な粒度で分かれていない	部位や詳細な粒度では分かれていない
	プロセスの範囲*2	生産にかかる数値を記載、Scope1/Scope3を分けた記載ではない	生産にかかる数値を記載、Scope1/Scope3を分けた記載ではない
	土地利用変化の加味	土地利用変化は加味されていない	土地利用変化は加味されている
カバー項目（例）	データの統一・比較		金額ベース
	牛肉	アメリカ	牛及び仔牛
		オーストラリア	牛及び仔牛
		カナダ	牛及び仔牛
	大豆	アメリカ	大豆
		ブラジル	大豆
		カナダ	大豆

*1：各データベースによる分類の組み替えあり *2：具体的なデータの掲載イメージはP16～19を参照

海外原材料、食品分野におけるデータベースの使用方法 産業連関表 (1/4)

Eoraの使用方法

- 1 Eoraホームページ<https://worldmrio.com/>にアクセスし、Applicationsタブを選択。Sector/product-level footprintをクリックする



- 2 1の遷移先であるGHG, Labor, and other Environmental Footprints By Sectorページの中盤に掲載されている Global Supply Chain Analysisの項より、目的の原産国・年度に合わせたMult_CO2_国名_YYYY.xlsxファイルをダウンロードする

Global Supply Chain Analysis

Mult_CO2_国名_YYYY.xlsx
ファイルをダウンロード

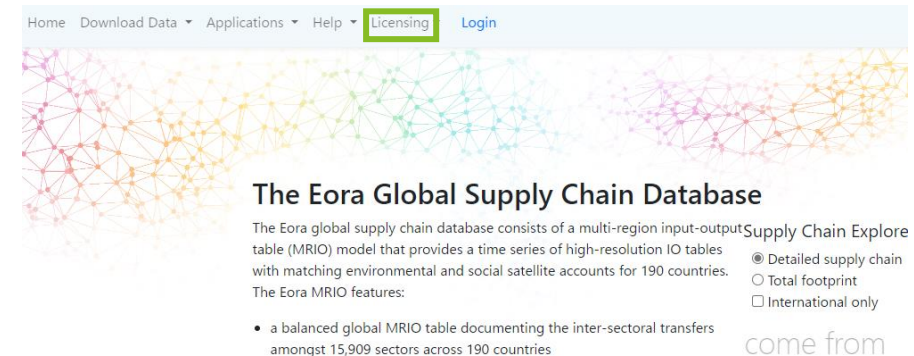
- 3 取得したファイルより、該当のSector/Productを参照することで、Scope1/Scope3の原単位が確認できる

Country	CountryCode	Entity	Sector/Product	Scope1 (t CO2-eq per \$1US)	Scope3 (t CO2-eq per \$1US)
USA	USA	Industries	Flour milling and malt manufacturing	0.000352476	0.000863365
USA	USA	Industries	Wet corn milling	0.00036953	0.000904015
USA	USA	Industries	Soybean and other oilseed processing	0.000372724	0.001039043
USA	USA	Industries	Fats and oils refining and blending	0.000364961	0.001066302
USA	USA	Industries	Breakfast cereal manufacturing	0.000230829	0.000600698
USA	USA	Industries	Sugar cane mill	0.000393027	0.001033955
USA	USA	Industries	Beet sugar manufacturing	0.00037531	0.000840791
USA	USA	Industries	Chocolate and confectionery	0.000365263	0.000874284
USA	USA	Industries	Confectionery	0.00029699	0.000743961
USA	USA	Industries	Nonchocolate confectionery	0.000302551	0.000753879
USA	USA	Industries	Frozen food manufacturing	0.000338535	0.000823906
USA	USA	Industries	Fruit and vegetable canning, pickling, and drying	0.000326442	0.000763071
USA	USA	Industries	Fluid milk and butter manufacturing	0.000343863	0.000849699
USA	USA	Industries	Cheese manufacturing	0.000409169	0.001028785
USA	USA	Industries	Dry, condensed, and evaporated dairy product manufacturing	0.000351038	0.000887696
USA	USA	Industries	Ice cream and frozen dessert manufacturing	0.000310777	0.000774936
USA	USA	Industries	Animal (except poultry) slaughtering, rendering, and processing	0.000366242	0.001069493
USA	USA	Industries	Poultry processing	0.0003754	0.001014184
USA	USA	Industries	Seafood product preparation and packaging	0.000308338	0.000737644
USA	USA	Industries	Bread and bakery product manufacturing	0.000266842	0.00059381
USA	USA	Industries	Cookie, cracker, and pasta manufacturing	0.000281082	0.000721071
USA	USA	Industries	Tortilla manufacturing	0.000294564	0.000691641
USA	USA	Industries	Snack food manufacturing	0.000276546	0.000662823
USA	USA	Industries	Coffee and tea manufacturing	0.000316755	0.000707124
USA	USA	Industries	Flavoring syrup and concentrate manufacturing	0.000130708	0.000396289

Sector/Productを参照

補足事項

データ取得のためには、学術機関を除き、有料ライセンス購入が必要
ライセンス詳細はEoraホームページ<https://worldmrio.com/>にアクセスし、Licensingタブ>License Storeを選択のうえ、確認のこと



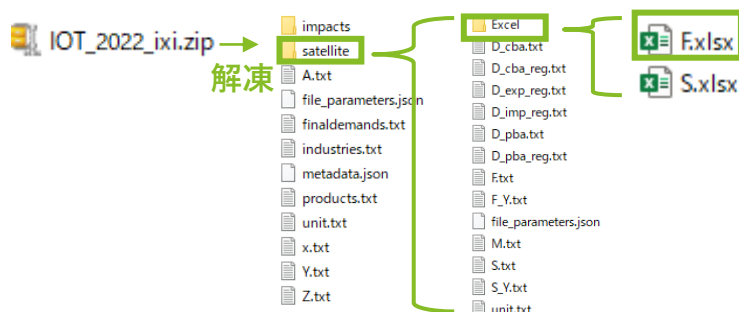
海外原材料、食品分野におけるデータベースの使用方法 産業連関表 (2/4)

Exiobaseの使用方法

- 1 Exiobaseホームページ（<https://www.exiobase.eu>）にアクセスし、サイト上部“ABOUT EXIOBASE”をクリック。遷移先ページ中盤の“ How to download”項より、最新版Exiobase配布サイトにアクセスする



- 3 IOT_YYYY_ixi.zipを解凍し、IOT_YYYY_ixi > satellite > Excel内に格納の、F.xlsxファイルを開く



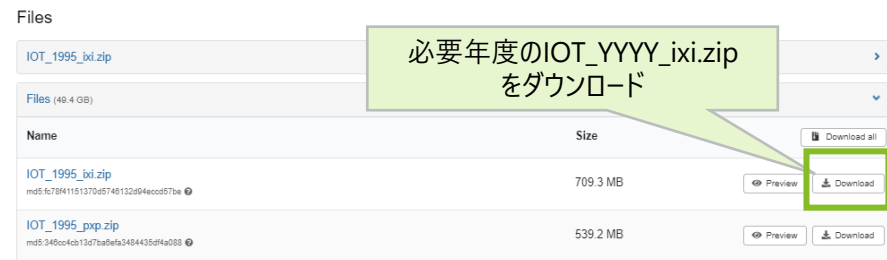
参考：Exiobaseは、下記資料で構成

- IOT_YYYY_ixi：業種別MRIO
- IOT_YYYY_pxp：製品別MRIO
- MRSUT_YYYY：多地域間供給・使用表
- SUT：各国および各年の国内供給・使用量

※詳細のファイル一覧説明は最新版ファイル配布ページ(手順①)より確認可能

出所：EXIOBASE 3 <https://zenodo.org/records/5589597> (2023年12月12日閲覧)

- 2 最新版Exiobase配布サイトより、IOTをダウンロードする



- 4 F.xlsxファイルを参照し、目的のregion, sector, stressorを選択し、原単位を確認する

Regionを選択					
region	AU	AU	AU	AU	AU
sector	Oil seeds	Sectorを選択			
stressor					
CO2 - combustion - air	1.68E+08	59834285.21	56324375.94	15375384	305966271
CO2 - non combustion - Cement production - air	0	0	0	0	0
CO2 - non combustion - Lime production - air	0	0	0	0	0
CO2 - agriculture - peat decav - air	18254250	3139470.576	7173393.142	2212804.1	2370267660
CO2 - waste - biogenic - air	0	0	0	0	0
CO2 - waste - fossil - air	0	0	0	0	0
Emissions nec - waste - undef	0	0	0	0	0

※画像内は、オーストラリアでの油糧種子・牛のCO2排出量（燃烧時の反応・セメント製造時の反応・石灰製造時の反応・農業泥炭・廃棄2種）の調査方法を例示

海外原材料、食品分野におけるデータベースの使用方法 産業連関表（3/4）

OECDの使用方法

1 <https://stats.oecd.org/> にアクセスする



2 OECD.Statトップページ内、左上部にてテーマを選択する
ここでは、Agriculture and Fisheries>Agricultural Outlook>OECD-FAO Agricultural Outlook2021-2030を選択する



OECD-FAO Agricultural Outlook2021-2030を選択

3 目的の品目に合わせて“Commodity”, “Variable”, “Country”を選択する。左上部のCustomise > Selectionより選択可能
“Commodity”を例にとると、大豆の場合はsoybean、牛肉の場合はBeef and vealを選択し、右下の“view data”ボタンを押下する
“Variable”, “Country”についても同様に操作することで、目的の原単位が得られる

OECD-FAO Agricultural Outlook 2021-2030

各項目をクリック

必要な項目にチェック

対象をチェックし 終わったら押下

“Commodity”, “Variable”, “Country”を選択し終わると、目的の原単位が表示される

Country	Australia									
Time	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Soybean	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01
Beef and veal	43.72	44.77	45.18	45.46	48.73	48.60	49.79	50.42	50.42	50.42

出所：OECD stat https://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=HIGH_AGLINK_2021（2023年12月12日閲覧）